

11月20日(月)、令和5年度加賀看護学校誓詞式が同校で行われました。



以下に、式辞、感謝の言葉を全文掲載します。

### 学校長式辞

本日、誓詞式を迎えられた24名のみなさん、おめでとうございます。皆さんは今、ナイチンゲール像のキャンドルランプから灯を受け取り、自身の言葉で、保護者の方々、後輩の前に宣言をされました。学校長として、とても頼もしく、うれしい瞬間です。

加賀看護学校に入学して1年半、多くの授業で、看護師にとって必要な知識や技術を学びました。この1年間、自分は本当に看護師に向いているのだろうか？勉強についていけるのだろうか？世の中にはもっと簡単そうに見えて、たくさんお金を得ることができる職業があるのではないかなど、自問を繰り返してきたのではないのでしょうか。実際に同級生が別の道を選択していくこともあったでしょう。ですが皆さんの心は入学式の熱い志のまま、本日を迎えられました。しかしながら、人とは弱いものです。私もそうですが、その感激や自分の矜持が年月とともに薄れていくものです。本日皆さんの声を聞き、私も医療、教育に奉職するものの1人として、気を引き締めました。皆様の立派な姿がみれたこと、私が感謝したいと思います。皆さんの教育をさらによきものにするを教職員一同を代表して宣言したいと思います。

さて、ナイチンゲールのろうそくですが、今一度その由来をお話したいと思います。1854年クリミア戦争時にイギリス政府からの要請で傷病兵の看護に彼女はシスター24人と看護婦14人の仲間で旅立ちました。それは、現在のトルコ共和国にある野戦病院でした。彼女は精力的に昼間働き、さらに毎晩、病棟の夜の見守りをしておりました。その姿はランプの貴婦人と呼ばれました。当時のロンドンの新聞に絵が掲載されています。多数の兵士が横たわる中、ナイチンゲールがろうそくをかざし兵士の顔を覗き込んでいる姿は、この像そっくりです。

本日は、皆さんがその灯をナイチンゲールから受け継ぎ、看護の道に前進するという志を受け継いだ日でもあります。同級生すべからくが、同じこの灯を分かち合った日です。

これからも毎日、技術練習や知識を学ばなくてはなりません。本日は看護学校3年間の中間地点です。入学し今日までもあつという間でした。残り半分です。皆さんが本校を卒業し、専門職として、医療の現場に出て行く日ももうすぐです。楽しみにしています。



令和5年11月20日 加賀看護学校長 北井隆平

### 感謝の言葉

加賀看護学校に入学し、看護を学び始めて1年半が経ちました。毎日の授業や校内実習、また臨地実習での様々な学びを経て、命に関わる重要さや責任の重さを実感しています。

私達は様々な疾患や看護の基礎を学び、臨地実習に行きました。1年生の時は緊張や慣れない環境の中、失敗することが多くありました。バイタルサイン測定では、上手く血圧が測れなかったり、足浴では温度確認を忘れることがありました。しかし、患者さんは笑顔で優しく「大丈夫だよ」と声をかけて下さいました。そしてもっと技術を磨いてより良い看護を提供したいと思いました。2年生の基礎看護学実習では、患者さんが入院する前の生活に戻れるよ



う、看護を提供することが目標でした。この実習では、患者さんの持つ力を活かした看護により、患者さんが自信を持ち、生きがいを感じ、回復に繋がっていくのだと学びました。また小児看護学実習では市内の保育園に行き、様々な年齢の子どもを観察し、年齢による特徴を学ぶことができました。今後、看護師としてどのように関われば良いのかをイメージすることができました。

これからの実習では、患者さんと多くコミュニケーションを取り、その患者さんの強みや特徴、生活背景を踏まえた看護を行っていきたいです。また、日々の授業や技術練習に取り組んでいきます。

看護学生として歩む中で、様々な困難があり、時にはくじけそうになったことがありました。その困難を乗り越えられたのは、家族や先生方、一緒に歩んできた仲間のお蔭です。これからも仲間と支え合い、励まし目標に向かって突き進んでいきます。そして、周りの人への感謝を忘れずに学んでいきます。

最後になりますが、私たちのためにこのような厳粛な式を行って頂きありがとうございました。

令和5年11月20日 2年生代表 谷口 麗夢